

個体群の変化に伴う平均こみあい度—平均密度関係の時間経過

萩原 秋 男

確率過程の理論が個体群の空間分布の変化を記載する数学モデルを組み立てるのに応用された。この数学モデルは、空間分布確率関数 ($Q_n(t)$) と推移確率関数 ($P_{i,n}(t)$) と名付けられた2つの関数から構成されている。前者の空間分布確率関数は任意の時刻での個体群の空間分布を示す関数である。また、この関数は、初期空間分布と後者の推移確率関数とから導かれる。

以上のモデルに従い、死亡過程・出生過程・移入過程、そしてこれらの結合過程などの個体群変化に伴う平均こみあい度—平均密度関数 (Iwao and Kuno, 1971) の時間経過が論じられた。

ERRATA

Res. Popul. Ecol. Vol. 16, No. 2 (March, 1975)

“A new method of sequential sampling to classify populations relative to a critical density” by S. IWAO

Page 282, line 8 from bottom:

For $T_\sigma > T_{0(\sigma)}$, read $T_\sigma > T'_{0(\sigma)}$.

Page 284, line 4 from bottom:

The equation for B should be read

$$B = \frac{\beta_1 \beta_2 - \beta_1}{\beta_2} + \frac{\beta_1 - \beta_2}{\beta_2} k.$$